



宮司プレス 第二百十六号

彦島八幡宮 宮司ニユース

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 令和六年 六月 三十日

◇宮司の柴田です。 宮司就任一年目を期して、第一号を発行しましたが、平成十八年六月のことでありまして、先月で丸十八年を迎え、今月で、十九年目を迎えました。 発行より七年

間、八十七号までは、発行の日時を、若干詐

称するといふ姑息な手段をほどこしながらで

はありますが、毎月一回を継続できたのです。

しかしながら、遅れを取り戻そうという、キャ

ッチアップの意気込みとは裏腹に、累積の遅れ

は、十四年目の令和二年には、最大の十三カ月

となりました。 十五年目を迎えた令和三年か

ら、キャッチアップ キャンペーンと銘打って、

遅れの累積を記述、あるいは、なぜ発行できな

く、遅れたのかなどを記載することにより、紙

面を埋めつくすことは封印し、潔くコツコツ

と発行を続けたのであります。 月に二回発行

しなければ、遅れの累積を減らすことができな

いことに気づき、発行計画を立案、果敢にチャ

レンジ、ようやくひと月遅れまで挽回しました。

宮司プレス二百十六号の発行です。 来月も、

先月や今月と同じように二回発行することが

叶えば、ようやく追いくこととなります。 な

んとかキャッチアップ完了を目指したいもの

です。

◇閑話休題、実は、日本初の西洋式灯台が設置

されましたのが、六連島灯台です。 当時、明

治天皇様が 行幸啓、御視察あそばされました。

明治丸に御乗船、六連島に御上陸なされました。

今も残る、灯台まで続く御影石の階段は、当時

建設されたものです。 その明治天皇様に随行、

お供をされたのが、明治政府の参議をつとめて

いた、西郷隆盛さんでした。 たまたま、大河

ドラマで、「せごどん」が放映されていた年に、

江浦小学校四年生を対象に「彦島の産業の歴史」

と題して講演をさせて頂いたことがあります。

タイムリーでもありますことから、「お供され

ていたのが、誰だと思えます。なんと、西郷隆

盛でした！」と声高らかに申し上げたのです。

「えっ」、「うそおー」、「すごい！」という、

どよめきを期待しました。 しかし、見事に裏

切られ、完膚なきまでに打ちのめされたのです。

まったくの反応なし、リアクションもありませ

ん。 不思議に思い、講演終了後、担任の先

生に、「どうしてでしょうか。 児童の皆さん、

西郷さんを知らないのでしょうか。 ショック

でした。」と問いかけました。 すると、「歴史

は、五年生から学習します」と、さらりと仰

るではありませんか。 先生の言葉にも咄然と

させられたのですが、偉人さんを称える教育が

なされていないことに驚きを隠せなかったこ

とが、思い出されます。 まさしく、戦後六年

半の占領軍の政策、「戦前は悪で戦後が正しい」

という、日本人を骨抜きにするという政策、「W

GIP(ウォー ギルト インフォメーション

プログラム)」の産物といえるのではないでし

ようか。

◇さて、七月三日から、一万円、五千元、千円

札の三券種が改刷されます。一万円札の肖像

は、「日本近代社会の創造者」といわれる渋沢栄

一さんです。また、五千円札の肖像に選ばれ

たのは、生涯を通じて、女性の地位向上と女子

教育に尽力された教育家の津田梅子さんです。

さらに、千円札の肖像は、「近代日本医学の父」

と呼ばれ、破傷風を予防、治療する方法を開発

された細菌学者の北里柴三郎さんです。

新しいお札を使う機会があれば、前述の西郷

隆盛さんもそうですが、それぞれの方の御功績

に思いを馳せ、称えたいものです。

◇買手の「買」や費用の「費」、貯金の「貯」、

財産の「財」など、お金に関する漢字には、「貝」

という文字が入っています。何故だかご存知

ですか。その起源は、漢字が誕生した中国で、

「子安貝」という美しい貝が、お金として使わ

れたことに端を発します。大昔、人々は、食

べ物など生活に必要なものを、物々交換で、手

に入れました。やがて、肉や魚のような、く

さるものではなく、交換するのに扱いやすいも

のが、人々から求められて、いろいろな国で現

在のお金の原型が誕生したのです。

◇日本では、稲や布地が、お金として使われて

いた時期がありました。「値」や「値打ち」

の「値」は、稲の「ネ」から生じた言葉だとい

う説もあります。このたび改刷される紙幣の

「幣」には、「又サ」という神前にお供えする、

尊い布という意味があるのです。紙で作つ

た御祓いに用いる、「御幣」もそうです。

◇いよいよ本日の三十日は、「二年のへそ」にあ

たり、罪穢れを清める「大祓式」を斎行しま

す。もちろん、前述の「御幣」でお清めをし

日常の暮らしの中で、失われる心身の清浄と恢

復を行い、神様からいただいた、「あかき き

よき まことの心」を取り戻さなければなりま

せん。そのためにも、生活の糧であるお金が、

「命の根」である「稲」と祓い清めの「幣」に

◇六月の祭典行事報告

▼月次祭

◆本宮 *六月一日、十五日



◇六月宮司動静 ▼講演活動

◆山中町自治会主催「ウエルカムサンデー」
にて講演 *六月十六日



◆山口県神社総代会豊浦支部総会にて講演
*六月二十日

